

APNIC 56 KYOTO, JAPAN
7-14 September 2023

Code of Conduct

1993 30 2023

APNIC 56 KYOTO, JAPAN
7-14 September 2023

Welcome!

APNIC 56カンファレンス報告

OPMにおける五つのポリシー提案

APNIC 56カンファレンス(以下、APNIC 56)が2023年9月7日(木)～9月14日(木)にかけて、京都市国立京都国際会館にて開催されました。本稿では、APNIC 56の開催概要とアドレスポリシーに関する議論の動向についてご紹介します。

APNIC 56 2023 9.7 THU ▶ 9.14 THU in KYOTO

APNICミーティングとは

APNIC (Asia Pacific Network Information Centre) は、アジア太平洋地域においてIPアドレスとAS番号の割り当てを管理する団体です。割り当てのルールに関しては広くコミュニティから意見を募り、適宜更新されています。こうした議論を行う場として、1995年1月より定期的にAPNICミーティングが開催されています。

APNIC Conferences

<https://www.apnic.net/events/conferences/>


JPNICブログ

「APNICミーティングはどこで開催されるの?」

<https://blog.nic.ad.jp/2021/5846/>


APNIC 56開催概要

APNIC 56は2015年福岡市にて開催されたAPNIC 39以来、8年ぶりの日本開催となりました。なお、APNIC 39はAPRICOT 2015との併催であり、APNICカンファレンス単独での開催は2002年北九州市で開催されたAPNIC 14まで遡ります。今回のAPNIC 56ではJPNICがローカルホストを務め、さまざまな関係各者様のご協力のもと、会期を終えることができました。ご協力いただきました皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

■ APNIC 56開催概要

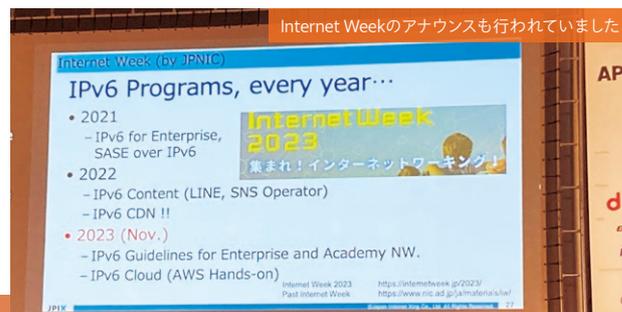
会期	2023年9月7日(木)～14日(木)
会場	京都府、国立京都国際会館
URL	https://conference.apnic.net/56/
主催	APNIC (Asia Pacific Network Information Centre)



会場となった国立京都国際会館

また、今回はAPNIC設立30周年という節目のタイミングとなり、このような回をAPNIC誕生の地である日本で開催できたことは大変素晴らしいことでした。会期中には30周年を記念するセッションや企画が用意され、APNIC設立時に携わられた方々が久しぶりに顔を合わせたり、当時の様子や出来事を聞いたりする大変貴重な機会となりました。

会期中、9月7日(木)～9月10日(日)の間は、さまざまなワークショップが行われ、今回は日本開催ということで、日本語でインターネットオペレーションの基本をお話する「Internet Operations 101」といったセッションも行われました。9月11日(月)～9月14日(木)は議論の場となるカンファレンスセッションが行われました。カンファレンスセッションでは、従来と同じく、アドレスポリシーやルーティングセキュリティ、NIR (National Internet Registry; 国別インターネットレジストリ)、ソーシャルな課題など特定分野に関心を持つ人達で議論が行われる「SIG (Special Interest Group)」、カンファレンスの総括および全体報告が行われる「AMM (APNIC Member Meeting)」、その他各種技術に関する講演等が行われました。



Internet Weekのアナウンスも行われていました

主催者報告によると、今回のAPNIC 56では世界47の国と地域から504名が現地参加しました。前回の単独開催であるAPNIC 54(シンガポール)はオンサイト開催再開後初ということもあり多くの人を集めました。今回もそれと同水準の人数が集まりました。

会期中のセッションについては、動画、資料および発言録がWebで公開されています。もし興味のある内容がありましたらぜひご確認ください。また、現地の様子はAPNICのFlickrで写真が公開されていますのでぜひご覧ください。

APNIC 56プログラム

<https://conference.apnic.net/56/program/>



Flickr: APNIC 56のアルバム

<https://www.flickr.com/photos/apnic/albums/72177720311127255>



Open Policy Meeting(OPM)での議論とその結果

今回のAPNIC 56では5件の提案が行われました。

コンセンサス形成のための意思表示方法としては、挙手とConfer(<https://confer.apnic.net>)を利用する形式で行われます。これらの投票の結果をチェアが吟味して、コンセンサスの判断が下されます。



ここからは、5件のポリシー提案の議論結果についてご紹介します。提案の内容や事前情報に関しては、JPNICブログにまとめていますので併せてご確認ください。また、IP-USERSメーリングリストでは、カンファレンス開始前にJPOPF運営チームによって、日本語での提案紹介および意見募集が行われています。今後の動向把握には、IP-USERSメーリングリストの登録をぜひお願いします。

APNIC 56でのIPアドレス・AS番号分配ポリシーに関する提案のご紹介

<https://blog.nic.ad.jp/2023/9196/>



IP-USERSメーリングリスト

<https://www.nic.ad.jp/ja/profile/ml/mailman.html#join-ip-users>



JPOPF運営チーム

<https://www.jpopf.net/JPOPF-ST>



■ポリシー提案と結果一覧

番号	タイトル	結果
prop-148	IPアドレスのリース禁止	コンセンサスに至らず
prop-152	IPv4アドレスの最大割り振りサイズを/23から/24へ変更	コンセンサスに至らず
prop-153	Policy Development Processの変更	コンセンサスに至らず
prop-154	IXP向け割り当てアドレスサイズの変更	コンセンサスに至らず
prop-155	アソシエイトメンバーへのIPv6割り当て	コンセンサス

○prop-148:「IPアドレスのリース禁止」

提案者: Jordi Palet Martinez氏、Amrita Choudhury氏、Fernando Frediani氏

<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-148/>

概要: 委任されたIPアドレスのリースは認められない旨を明記し、違反した場合にはアドレスの委譲を取り消す旨をポリシー文書に追記する。

結果: コンセンサスに至らず

APNIC 54から継続議論となっていた提案です。前回の議論においてIPアドレスリースの定義をすり合わせることは困難であると考えた提案者は、文章内から可能な限り「リース」という言葉を排除し、顧客との直接接続性を要するという言葉に置き換えた、と主張しました。しかし実際には提案文書内に「リース」の文言が残っていること、またいくら文言を変えても提案者が抱える問題意識の解決には「リース」という言葉の定義は避けられないこと、言葉を曖昧にしたことによる事務局の対応プロセスも曖昧であることなどが指摘として入り、今回もコンセンサスには至りませんでした。

提案者は本提案を一度取り下げ、タイトルや内容の修正をした上で再提案を予定しているようです。

○prop-152:「IPv4アドレスの最大割り振りサイズを/23から/24へ変更」

提案者: Rajesh Chharia氏

<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-152/>

- 概要: 1.現在ある在庫(103/8)が枯渇するまでは、現状通り/23をmaxとした分配を継続する。
2.103/8枯渇後は既にIPv4アドレスの分配を受けたものは新規に分配を受けることはできない。
3.新規メンバーには最大/24の分配をReservedプールから行う。
4.完全枯渇した際には新規メンバーのためのwaiting listを作成する。

結果: コンセンサスに至らず

提案者は現在APNICが保有する分配可能なIPv4アドレスの在庫は2024年中に完全枯渇迎えることが推測されることから、IPv6アドレスの導入に必要なIPv4アドレスとして多くの組織に分配できるようにこのような延命措置を講じる必要があると主張しました。

しかし会場からは、このような提案が実装されることで駆け込みでの申請が発生し混乱をきたす可能性が指摘されたり、現在の最大割り振りサイズ/23よりさらに小さくしてしまうともはや事業者としてできることはかなり限られてしまうといったネガティブなコメントが寄せられました。

コンセンサス確認では賛成派と反対派で割れましたが、チェアの判断により、コンセンサスには至りませんでした。

Oprom-153:「Policy Development Processの変更」

提案者: Bertrand Chierri氏

<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-153/>

概要: Policy Proposalの提出は次回OPMの5週間前までとし、4週間前にはPolicy SIGへ投稿される。(提出期限を明確化する)

結果: コンセンサスに至らず

現在のPDPではOPM開催の4週間前にはポリシーSIGのメーリングリストに提案が投稿され、事前ディスカッションを始められるようにする必要がありますと規定されていますが、提案の提出期限については明記されていませんでした。今回はその明確化を図るため、OPMの4週間前に加え、ポリシー提案の内容をSIGチェアが確認し、投稿作業をする期間として1週間追加した5週間前をポリシー提案の提出期限とする提案でした。

十分な事前ディスカッションの期間としてOPM開催前の4週間が設定されていますが、実体としてメーリングリストでのディスカッションは投稿後1週間程度でほとんどの提案が議論を終えていることが会場から指摘されました。また、会場からはJPOPFのような母国語に翻訳してポリシーディスカッションを行うような人々には必要な時間なのではとの意見もありましたが、いつ公開されるかが明確であればさほど問題とはならないとJPOPF-STからコメントがされました。

賛成・反対拮抗しましたが、コンセンサスには至りませんでした。

Oprom-154:「IXP向け割り当てアドレスサイズの変更」

提案者: Simon Sohel Baroi氏, Aftab Siddiqui氏

<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-154/>

概要: 1. IXP向け割り当てのデフォルトサイズを/26とする。

2. 60AS以上のピアがある場合には/25まで割り当てを受けることができる。

3. 100AS以上のピアを計画または証明できる場合、/24まで割り当てを受けることができる。

4. 保有IPv4アドレスが/24以下のIXPは利用率が60%を超えていることを証明することで/23までの割り当てをリナンバすることで可能とする。

5. 保有IPv4アドレスが/23のIXPは利用率の80%超えを証明することで/22までの割り当てをリナンバ可能とする。

結果: コンセンサスに至らず

本提案はRIPE NCCで実装された提案を一部改変してAPNICでも実装しようとされた提案です。IXPはAPNICから/23分のIPv4アドレスの分配を受けることができますが、実態として多くのIXPでは持て余す量となっており、効率的・効果的な分配となっていないと提案者は主張しています。そこでデフォルトの割り当てサイズを/26に縮小し、ピアリングの数や利用率を条件として追加での割り当てを受けられるようにしようというのが本提案でした。

本提案での最大の懸念点は/23以上の割り当てを受ける際にリナン

バを伴うという点でした。IXP事業者の方からはリナンバリングに必要な労力とそれに見合う効率化が結果として出るのかどうか、強く懸念が表明されていました。

効率を重視する人やIPv4アドレスが欲しい賛成派と、IXPを中心とした反対派で意見はぶつかり、OPMの中ではまとも切れず、コンセンサスには至りませんでした。

Oprom-155:「アソシエイトメンバーへのIPv6割り当て」

提案者: Simon Sohel Baroi氏, Aftab Siddiqui氏

<https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-155/>

概要: Associate memberは/48のIPv6 PI割り当てを受ける資格を持つ。

結果: コンセンサス

APNIC 52の際に、prop-137として提案されたものが再度議論となりました。IPv4/IPv6アドレスをどちらも持たない、選挙権だけを持つAPNICメンバーカテゴリ「アソシエイト」に対して、/48のIPv6割り当てを認めようという提案です。この変更によって、小規模事業者や学術期間等で試験的なIPv6実装などが容易になると見込まれます。

会場ではコメントが出ませんでした。IPv6実装を推進、支援していく機会が増えるのは良いことであるとして、多くが賛成に回り、コンセンサスに至りました。

次回以降のAPNICカンファレンスについて

今回のAPNIC 57は、2024年2月21日(水)～3月1日(金)、タイ・バンコクでAPRICOT 2024と同時に開催される予定です。次々回がニュージーランド・ウェリントン、その次がバングラデシュ・ダッカというところまでが発表されています。



APNIC 57 / APRICOT 2024のWebサイト(<https://2024.apricot.net/>)

APNICカンファレンスは、APNICメンバー以外にも広く門戸を開いています。ポリシー動向はもちろん、世界での最新技術動向やトレンドトピック、国際連携・国際交流に関心をお持ちの方は、ぜひ一度参加されてみてはいかがでしょうか。英語でのカンファレンスですが、同時英語字幕等、初心者や非ネイティブスピーカーへの配慮もなされています。また、YouTube Liveやアーカイブの動画を見することもできます。皆様と、APNICカンファレンスの場でお会いできることを楽しみにしています。